

## 福祉計画検討委員会 議事録

(高齢福祉課・保健センター)

### ○議事録

議 長        それでは、最後の案件になります「なわて高齢者プラン」についてご審議いただきます。事務局よろしくお願いします。

事務局        貴重なお時間いただいて有難うございます。最後の案件でございます。今しばらくよろしくお願いいたします。まず事務局の紹介をさせていただきます。一番向こうから保健センター所長を兼ねております、松川健康福祉部健康保健担当部長でございます。続きまして保健師の柴田保健センター主任でございます。それから高齢福祉課主任の菅井です。最後に私、高齢福祉課長の阪本でございます。まず保健センターの方から説明させていただきます。それでは座って説明させていただきます。

事務局        では保健センターから説明させていただきます。まず2ページ目なのですが、大腸がん検診の受診率の方が間違っておりまして、訂正したいと思います。平成25年度の受診率が12.8とありますが、7.8の間違いですので訂正の方よろしくお願いします。

進捗状況について説明させていただきます。保健センターでは、健康づくりの推進のために事業を行っています。高齢者に関することは、介護保険が主流であるため関わりは年々少なくなっています。では、40歳からの健康づくり事業の報告をさせていただきます。まず、健康診査及び検診についてです。資料をご覧ください。取り組み内容に変わりはないのですが、前回に年々の推移より、大阪府との比較をしてもらいたいというご意見がありましたので、比較しております。最新が平成22年のため、本市も22年の実績を記載しています。悲しいことに子宮がん検診以外は低い状況です。次の頁になります。健康手帳の方なのですが発行状況は、平成26年1月末で219人の方に手帳を配付しております。訪問指導は、高齢者に関しては何らかの福祉サービスを利用したいと思われる場合は、介護保険の申請となり、訪問をしますので保健センターに最初に来ることはまず無く、最近では緊急通報装置を希望する方の訪問のみで依頼に基づく訪問となっています。14件訪問しているのですが、訪問数の約3分の1は、母子保健で訪問した保護者の方が40歳以上で精

神等の疾患で訪問している数が入っています。介護保険に移行したと思えるので、もしよかったら次年度からは数の報告は省きたいと考えています。健康教育に関しましては、1月末現在で45回実施しています。参加延べ人数は958人です。健康相談に関しましては1月末現在32回で相談延べ人数1052人の方に実施させていただきました。リハビリテーションに関しましては、介護予防部会に参加して企画・検討をしております。個別支援訪問に関しましては、1月末現在で訪問指導延べ人数は76人となっております。現在の進捗状況は以上となります。ありがとうございました。

#### 事務局

そうしましたら、高齢部門について説明させていただきます。まずは高齢者福祉サービスの充実として、生きがい生活支援型の通所事業でございます。「街かどデイハウスさんら」につきましては、現在の週4日（月・水・木・金）の開所日から週5日（月～金）に拡大を図るべく今年度は検討を進めてまいりましたが、新規利用者の伸び悩みに加えまして、利用者が要介護状態になり、利用が継続できなくなるなど、全体として利用者数の減少が見られた為、政策調整会議におきまして拡大に至らない判断となりました。今後は、運営委員会や事務局の社会福祉協議会と連携を図りまして、街かどデイハウスの趣旨にマッチする市民の利用を促すなど、関係機関に対しまして、更なる周知を図り利用者増に努めるとともに、引き続き、府交付金の確保につきましても協議を継続してまいります。2頁目ですが、「ふれあいサロン」につきましては、男性向けのサロンを含め、5か所がそれぞれ安定した活動を続けておられ、引き続き地区・自治会における活動と合わせまして推進・支援していきます。「ふれあい元気クラブ・えんじょい」につきましては、平日の午前10時から午後4時の間で午前と午後に分け、囲碁・将棋をはじめとした娯楽や書道教室、カラオケ、歌体操などを実施していますが、利用者による口コミが広がった結果、1日平均で15名が利用される活動へと発展いたしました。今後は一部プログラムが決まっていない時間帯について事務局の社会福祉協議会と意見を交え、確定を急ぐとともに、口コミだけではなく広報誌や社協だよりにおいても市民への周知を図り、次年度以降も安定した利用者の確保に努めていく必要があると考えております。

続きまして、民生委員の活動支援でございます。今年度は民生委員の改選があったことから、カードの記録更新などを通じ、日頃の

訪問、声掛け、見守りに繋げていただきました。また、昨年 7 月 17 日の民生委員定例会におきまして、緊急連絡カードの追加配付の案内を行い、必要数に応じて配布を行いました。現在、平成 26 年度に対象者の住民基本台帳による情報を民生委員へ提供する準備のため、個人情報の問題等について関係機関と調整しております。続きまして、交流・ふれあいの場づくりでございます。老人福祉センター楠風荘では有意義な時間を過ごしていただくため、大広間において時代劇やコメディ、ホームドラマ、アニメなどの映画上映を順次行っております。また、健康の維持と親睦を図るため、引き続き好評の健康フラダンスをはじめとした健康事業を実施しております。今年度は現指定管理者による運営の最終年となり、次年度以降（平成 26 年～30 年度）についての業者選定を行いました。指定管理者選定委員会におきましては、「看護師が常駐しているので安心できる」、或いは「団体で訪れた際でも血圧測定を実施していた」など、肯定的な意見が多数聞かれ、結果、現指定管理者が引き続き管理を行うこととなりました。今後も民間事業者としてのノウハウを最大限に活用し、高齢者の自主的な活動をより積極的に支援できるよう指導してまいります。また、昨年 9 月 13 日には市民総合センター市民ホールにおきまして、敬老会を開催しました。今年度に 100 歳を迎えられる市民 17 名の中から、5 名の方に登壇していただきました。マイクを通して力強いメッセージをいただき、大いに会場が盛り上がりました。また、お祝いイベントといたしまして「漫談・南京玉すだれ」と「五木ひろしそっくり歌謡ショー」も実施いたしました。昨年同様、老人福祉施設の入所者を招待するなど、約 300 名の市民の皆様楽しんでいただきました。なお、今年度は百歳表彰者が昨年度の 6 名から 17 名に増えたことで、市外の施設・病院等への訪問もあり、例年になく時間を要しましたが、直接全員にお会いしてお祝い状等をお渡しできたことで、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。次に、交流ふれあい（生きがいと健康づくり）事業でございます。4 頁でございますが当事業は例年、大阪ガスグループ福祉財団の協力を得て夏期と冬季に実施しています。今年度は昨年 8 月 27 日に新たな取組みとして、手毬を使ってバランスをとることなどで楽しく全身を動かす「健康リズム体操」を実施いたしました。また、来る 2 月 25 日におきましても元気ワクワク健康教室を開催し、肩こり予防をテーマとして体操や講話を行うこととしております。

次に、地域包括支援センターの機能強化でございます。今年度につきましては、くすのき広域連合の特集チラシを定期的に市広報誌へ折り込んで周知啓発に努めるとともに、自治会やふれあいサロン等の地域活動に積極的に参加し、3つの包括支援センターが地域に合わせた相談体制や支援体制を構築していくため、高齢福祉課職員とともに地域包括ケア会議を通して関係機関との連携に努めました。まず、第1包括につきましては、昨年10月に岡山5丁目19-20の方に事業所移転いたしました。主な教室については家族介護教室や介護予防教室などを開催いたしました。第2包括につきましては、カラコロ体操の運動サポーターの養成やグループホームに出向いての意見交換、認知症見守り教室や家族向けの介護教室あるいは介護家族の会の開催検討などを行いました。また、第3包括ではカラコロ体操の実施や認知症見守り教室「認知症を知ろう」、認知症予防教室、介護予防教室、家族介護教室などを開催しました。包括支援センターについては一定周知されて来てはいるものの、活動情報につきましては、昨年8月の当委員会でもご指摘がありましたようにPR不足は否めず、平成26年度につきましては、市広報誌におきまして、包括支援センターに関する特集ページを毎月設け、上記をはじめとする取組み事項について、更なるPRを図っていきたいと考えております。続きまして、認知症高齢者等への総合的支援に向けた取組みでございます。四條畷市における認知症への効果的な取り組み方法につきましては、地域包括ケア会議各部会の共通課題といたしまして、継続して議論を行っております。認知症につきましてはご承知のとおり、昨今の新聞報道などにより、高齢者やご家族における関心事となっております。昨年8月の当委員会におきましても正しい情報を伝える手段が必要とのご意見を頂きましたが、「実際、認知症がどのようなものなのか、どのように接すればよいのか分からない」と思われておられる方が多く、地域包括支援センターが中心となって関係機関が認知症についての正しい知識を得てもらふ教室を開くなど、認知症に対する正しい理解を深めていただくことを第一の目標に、小規模での教室開催を重ねております。冒頭、生きがい生活支援型の通所事業「ふれあい元気クラブ・えんじょい」の説明のなかで、プログラムの決まっていない時間帯があると申しましたが、この時間に第2包括支援センターによる「家族向けの介護教室」あるいは「介護家族の会」を開催し、認知症に関する議題も視野に検討しているところです。

以上を持ちまして、高齢福祉課の説明を終えさせていただきます。

議 長        はい。有難うございました。ただ今、なわて高齢者プランの説明が終わりました。この件につきまして、ご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

大滝委員     健康相談は週 1 回なのですか。

事務局        はい。週 1 回実施しているのですが、それは母子も同じなのです。申し込み制になっておりますので、そこで成人の方が来た日をカウントさせていただいています。毎週 7 枠ある中で取っているのですが、来ない時はカウントしていなくて来た日だけをカウントしています。

大滝委員     例えば、血圧がおかしい、体の調子がおかしいからとかそういう時に行かれると思っていたのですが、申し込み制ということですね。

事務局        胃がん検診時等の検診時に血圧を計っているというのと、いろいろな施設で自動血圧計がありまして、ご自身で測定されていることも見かけられます。血圧記録手帳を医療機関等でもらい、健康管理に気をつけられている市民の方が増えてきたように思います。健康相談では、医療機関に行った時に言われ、食事の事でコレステロールが少ない食事を紹介して欲しいとか、検診でこの検査の意味するところを教えてほしい等で申し込みがありますので、事前に言っただけいたら準備できるということで、申し込み制で、1 時間枠を取ってその人の為に実施する形でしていますのが毎週ある健康相談です。

大滝委員     ありがとうございます。

議 長        はい。他にありませんか。

山上委員     認知症によることで、第 2 包括の家族向けの介護教室あるいは介護家族の会の開催については第 2 包括だけの実施ですか。

事務局        はい。すみません。第 1 と第 3 につきましては既に実施しており

まして、第2が追い付く形でこの度実施しようとするものでございます。

山上委員 中身ですが、認知に関することに重きを置いて教室をやられているということですか。

事務局 はい。家族様向けの講座なのですが、認知症が関心事となっておりますことから、自ずと要望によりまして認知症についての話がメインになって来るものと思われれます。

山上委員 聞きたいのですけれども、これはどの位集まって来られますか。

事務局 はい。第2包括につきましては元々四條畷荘の方で、施設のご家族様向けに行っていたのですが、そこで10数名の参加であったのをこの度、地域に拡大する為、近くにありますふれあい元気クラブ・えんじょいを活用して概ね30～40名程度に広めていきたいということを伺っております。

山上委員 大事なことだと思いますが、第1と第3はどうなのですか。

事務局 はい。数字はこの5ページに書いております実績を作成しながら見ていましたけれども、少ない時は10名から多い時で30名程度の利用が見られました。

山上委員 これは広報紙に掲載されておられるのですか。

事務局 これに関しましては、第1包括につきましては、地区の公民館を順番にしながらということですので、その地区の方に案内を撒くという形でございます。第3包括につきましてはパークヒルズ田原が母体となっておりますのでちょっと運用の仕方が違います。26年度の広報紙につきましては、この辺りも広報させていただいて、何も岡山地区で実施するときに中野の方が駄目ということではございませんので、広い視野で広報紙を活用していきたいと考えてございます。

山上委員 今までに広報紙に載せて実施されていたのですか。

事務局        いいえ。これは広報紙には掲載しておりません。地区にスポットをあてて案内をしておりましたので。

山上委員      これは情報が多いと思いますよ、実際は。潜在的にも相当あると思いますね。

事務局        聞きますと、私のおばあちゃんのケアがというスポットでの質問もございまして、たくさん集めれば良いというのではなくて、その辺がジレンマと言いますか、手法を考えていかなければならないと思っております。

山上委員      包括センターの専門の方達が入って行かれたら、前途が広がって来ると思います。高齢者施設やふれあいサロンの中でどんどんやられたらどうかと思います。

事務局        はい。ありがとうございます。

福田委員      保健センターには申し訳ないのですが、胃がん検診40歳以上について、年間2.87%ですか。物凄く少ないですね。一つは日数が少ないのですかね。

事務局        そうですね。集団検診で月1回弱ぐらいの回数になります。

福田委員      集団で月1回、実際年10回ですしね。例えば1カ月待ちかな。実際胃がんというのは80歳になるまでに何人に一人なるか皆さんご存知ですか。10人に一人なるのですよ。日本人に1番多いがんなのですよ。10人に一人ならこのメンバーでも何人かなるのですよ。胃がんと言うのは早く見つければ助けることができます。3年も放っておけば末期がんになってしまいます。毎年検診をしないと駄目なのです。肺がんは胃がんの7倍位ですが。もうちょっと胃がん検診を熱心にやってもらわなければいけないと思います。例えば検診の紹介をしてもらおうセンターがありますよね。大阪がん循環器予防センターとか、コストは500円で済むのですか。

事務局        検診を受けるのは500円で済みますが、その後の精密検査は保

険診療になりますので自払いです。

福田委員 日曜日はやっているのですか。

事務局 がん循環器センターは日曜日には実施しておりません。こちらで年 2 回日曜日に実施している時や女性総合がん検診時には、いつも予約で一杯になってキャンセル待ちで他の曜日に空きがある状態にあるのが現状です。

福田委員 そうですね。簡単に増やそうと思えば胃がん検診を単純に倍にしたら大阪府の上の方になると思うのですが。ただ予算があるのでね。ここへ相談して結局駄目だったらがんセンターへ行く。それだけでコストが上がるから。地元で受けられるのは大事なのかなと思うのですけどね。胃がんは 10 人に一人がなると思っていないのですよね。やっぱり現実をもっと具体的に知らせることが大事なのでは。もうちょっとがん検診についての広報をやってもらってはどうかと。コストの問題があって出来ないと言われるけれども、もうちょっと前向きにいかなければ、このままでは大阪府で最低になってしまう。保健センターに何とか頑張ってもらわないと。

事務局 去年は広報の特集に掲載しましたが、他にもクーポン事業もしておりまして、50 歳代の未受診者には郵送で検診の喚起もさせていただきました。

福田委員 クーポン券は 60 歳までで 65 歳にはクーポン券がないのですよ。70 歳は無料になるのです。65 歳が抜けているのでこの間ちょっと損だという話をしたのですがね。クーポン券は良い制度だと思いますがね。是非推進いただいて。ただ請求がややこしいですがね。

後、この会議長くないですか。結構厳しいですね。2 回に分けるとかできませんかね。

議 長 そうですね。はい。他ございませんでしょうか。無いようですので、これでなわて高齢者プランについての審議を終了させていただきます。

事務局 ありがとうございました。



議 長        これですべての案件が終了致しました。長時間に渡り、貴重なご意見をいただき、また、円滑な議事の運営にご協力をいただき、ありがとうございました。